

心の輪21R



『人間であることの美しさ』という資料を通して、
「目標に向かう意志」について考えました！



新種目として、初めて女子マラソンが加わった1984年のロサンゼルス・オリンピック。この記念すべき大会で、メダル無き勝者として、今なお鮮やかに人々の記憶に残っている選手が、スイスのガブリエラ・アンデルセンである。脱水症状で朦朧とした意識の中、係員の制止を拒み、よろけるように蛇行しながらゴールを目指す彼女。人間の極限に挑むその姿に、観客は総立ちになり、惜しみない声援と拍手を送った。

あの時、私は、本当にゴールまで辿り着きたかった。肉体はもうとっくに走ることを諦めていたけれど、でも、心は強いモーターで体をコントロールできるのです。人は、心から何かを願えば、ほとんどのことが叶うのです。人生と同じように。



今日は、「人間であることの美しさ」についてしました。「もう無理だ。限界だ。」と思ったら、大体の人は諦めてしまうが、このアンデルセン選手は、強い意志を持って走り抜いた。そこに僕は惹かれました。これからは、肉体が無理と言っても、諦めないと思って行動したいです。

今日、私はアンデルセン選手の強い意志で最後まで走り切る姿を見て、すごく格好良いなと思いました。最後にアンデルセン選手が、「強い心があれば、ほとんどのことは上手くいく」と言っていたので、諦めずに頑張りたいと思いました。

「ダメだ」と思ってからが勝負なんだと僕は感じました。もうダメなことだって、強い意志があれば、強い心があればできるんじゃないかなと思いました。諦めずに何事もやっていきたいです。

今日の学習で、私は、「人は何かを必死にやり遂げようとするれば、限界だって超えられる」ということを知りました。私も、こんなに頑張れる目標を見つけたいなと思いました。

僕は、嫌なことから逃げてしまうけど、アンデルセン選手は、命の危険があっても『人間であることの誇り』のために頑張っているのですごいなと思いました。

強い意志を持てば、どんなことでも、乗り越えられるのだなと思いました。何かを強く願って、それに向かって努力することを忘れずにいたいと思います。

私は、「やりきりたい」「止めたくない」と心から思っていれば、どんなこともやり遂げることができるんだと思いました。なので、私もこれから自分で決めたことは、しっかりやりきりたいです。

脱水症状を起こしてでもゴールまで行こうとしたアンデルセン選手は、強いと思いました。私だったら、途中で止めていると思います。でも、アンデルセン選手の気持ちには賛成で、やらずに後悔するより、やって後悔したいと思いました。

アンデルセン選手のような強い意志のある人は、本当に格好良いと思います。私は今までたくさんを諦めてきました。でも、これからは、すぐに諦めず、一つだけでも最後まで強い意志を持ってやりきりたいです。

「行く手に大きな壁が立ちはだかっていたら、その向こうに帽子を投げろ。」
というアイルランドのことわざがあるそうだ。帽子を取るために、その壁を乗り越えなければならなくなる。
誰にも目標や希望がある。
もう少しで達成できそうな目標、
人生を賭けて挑戦する目標、
どれも生きていく上での大きな活力になる。
目標達成の満足感は、自信や更なる勇気をもたらす。
だが、大抵の場合、その過程でいろいろな壁にぶつかる。
そのとき、壁の向こうに希望を投げ込み、
それを越えていくという強い意志が、
人生を切り拓いていくのではないだろうか。

文部科学省資料
『心のノート』P.16より引用